

2005年4月

## 6～18歳の子どもを持つ父母600名に聞いた 『親子関係に関するアンケート調査』

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、全国に居住する6～18歳の子どもを持つ父母600名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

### 目次

アンケート調査の実施概要	.....	1
子どもとの普段の対話状況	.....	2
子どもの年代別にみた「よく対話をする」割合	.....	3
子どもと一緒に朝食を食べているか？	.....	4
子どもと一緒に夕食を食べているか？	.....	5
父（母）の日に子どもからプレゼントをもらえるか？	.....	6
自分の誕生日に子どもからプレゼントをもらえるか？	.....	7
子どもの誕生日にプレゼントをやっているか？	.....	8
子どもは家事を手伝ってくれるか？	.....	9
子どもが家事を手伝わない理由	.....	10
子どもから信頼されていると思うか？	.....	11
研究員のコメント	.....	12

### お問い合わせ

株式会社 第一生命経済研究所  
ライフデザイン研究本部 研究開発室  
広報担当：丹野・新井  
〒100-0006  
東京都千代田区有楽町 1-13-1  
TEL . 03 - 5221 - 4771  
FAX . 03 - 3212 - 4470

当研究所ホームページアドレス  
【<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>】

## アンケート調査の実施概要

1. 調査地域と対象 全国に居住する6～18歳の子どもを持つ父母
2. サンプル数 600名
3. サンプル抽出方法 第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法 質問紙郵送調査法
5. 実施時期 2005年1月
6. 有効回収数(率) 580名(96.6%)

### 7. 回答者の属性

(単位:人)

	30代以下	40代	50代以上	合計
父親	71	183	27	281
	(25.3%)	(65.1%)	(9.6%)	(100.0%)
母親	161	127	11	299
	(53.8%)	(42.5%)	(3.7%)	(100.0%)
合計	232	310	38	580
	(40.0%)	(53.4%)	(6.6%)	(100.0%)

### 8. 子どもの属性

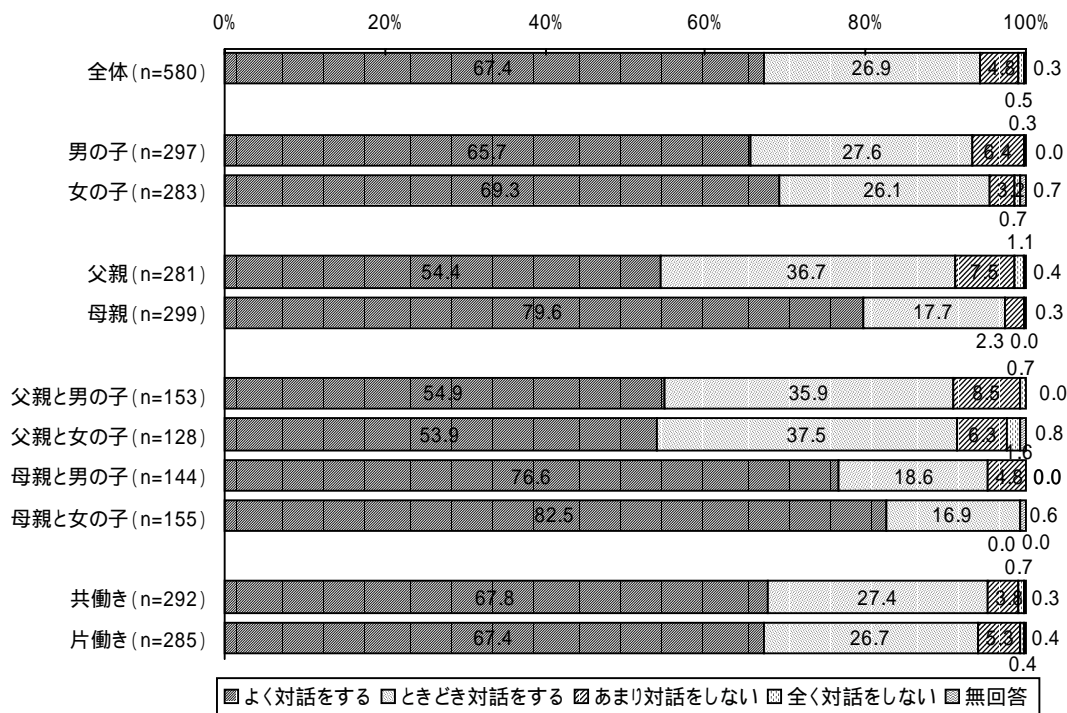
(単位:人)

	小学生低 (6～9歳)	小学生高 (10～12歳)	中学生 (13～15歳)	高校生 (16～18歳)	合計
男の子	96	68	70	63	297
	(32.3%)	(22.9%)	(23.6%)	(21.2%)	(100.0%)
女の子	91	69	59	64	283
	(32.2%)	(24.4%)	(20.8%)	(22.6%)	(100.0%)
合計	187	137	129	127	580
	(32.2%)	(23.6%)	(22.2%)	(21.9%)	(100.0%)

# 子どもとの普段の対話状況

普段子どもと「よく対話をする」親は、全体の67%。  
母親の約80%が「よく対話をする」のに対し、父親は54%。

図表1 子どもとの普段の対話状況(全体・性別・父母別・共片働き別)



まず最初に、子どもとは普段どの程度対話をするかを尋ねました。

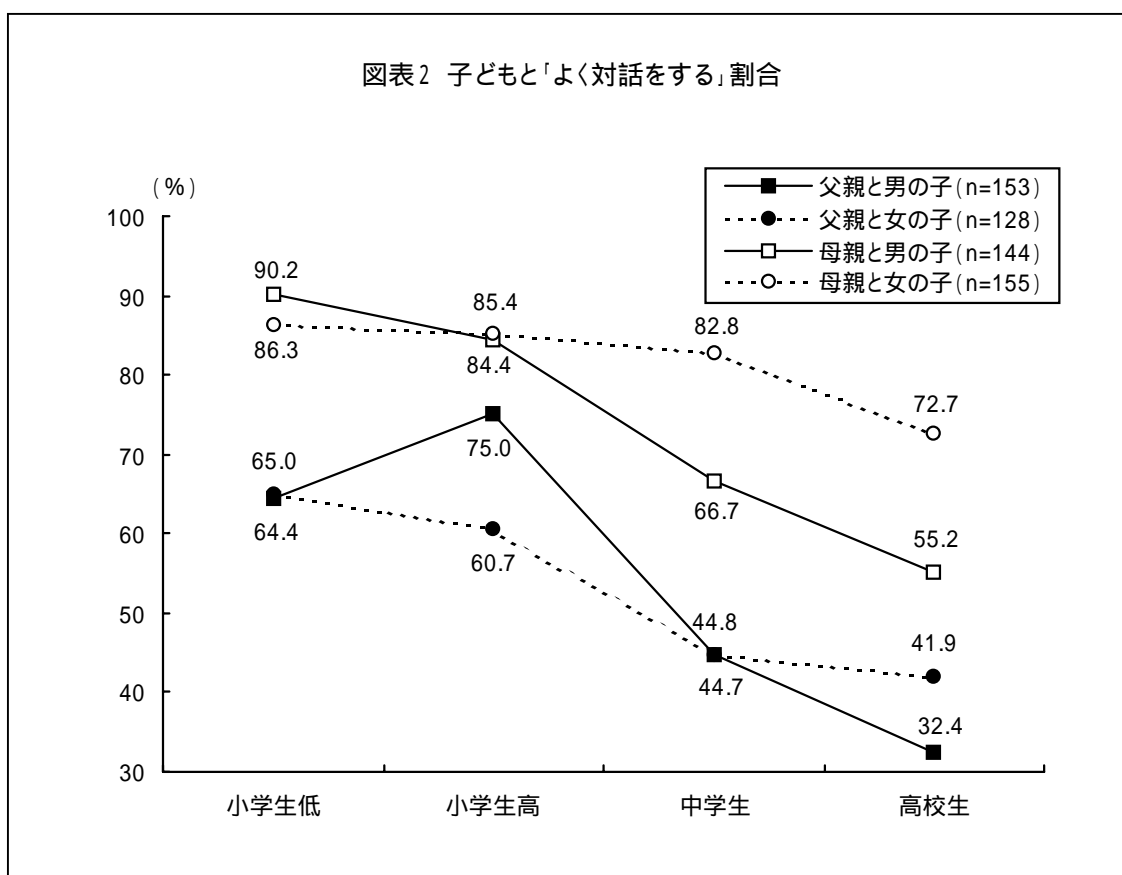
全体では、「よく対話をする」と回答した親は67.4%おり、約3分の2の父母は子どもとのコミュニケーションがよくとれていることがわかりました。

父母別にみると、母親の約8割が「よく対話をする」(79.6%)と回答しているのに対し、父親は54.4%と半数強に過ぎず、父母間に大きく差があります。

また、「よく対話をする」割合が最も高いのは“母親と女の子”(82.5%)で、この女性同士の関係には対話をしない(「あまり対話をしない」+「全く対話をしない」)親子がおらず、最もコミュニケーションがとれていると思われます。一方、最も「よく対話をする」割合が低いのは、“父親と女の子”(53.9%)でした。

## 子どもの年代別にみた「よく対話をする」割合

対話をする割合が最も低いのは、“父親と高校生の息子”(32.4%)。母親との対話も、子どもが中学生以上になると男女間で差が出る。



図表1において、子どもと「よく対話をする」と回答した割合を子どもの年代別にみた結果、大きな差がみられました。

母親については、子どもが娘の場合、小学生から高校生まで比較的良好に話している状況がみえますが、子どもが息子の場合には、中学生以上になると対話する割合が低くなる傾向があります。

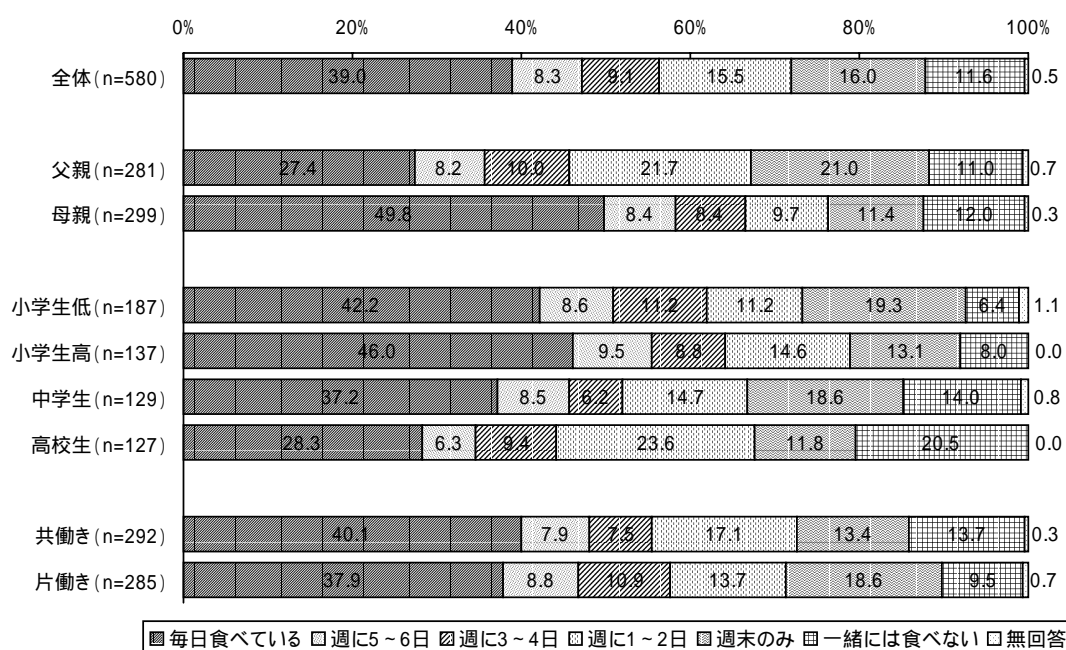
父親についても、母親と同じく、子どもが中学生以上になると対話する割合が低くなりますが、中でも特に、高校生の息子と「よく対話をする」割合は32.4%と、約3分の2の父親はコミュニケーションがとれていないことがわかります。

母親と娘のような女性間の親子のコミュニケーションはよくとれていますが、父親と息子のような男性間の場合はよくとれていない状況がみてとれます。

# 子どもと一緒に朝食を食べているか？

子どもと朝食を「毎日食べている」親は、父親約 27%、母親約 50%。  
全体の約 11%の親は、平日・週末含めて全く「一緒には食べない」。

図表3 子どもと一緒に朝食を食べる頻度(全体・父母・年代・共片働き別)



普段子どもと朝食をどの程度一緒に食べているかを尋ねました。

全体では、39.0%の親が子どもと一緒に朝食を「毎日食べている」一方、11.6%の親は、平日・週末を含めて全く「一緒には食べない」ことがわかりました。

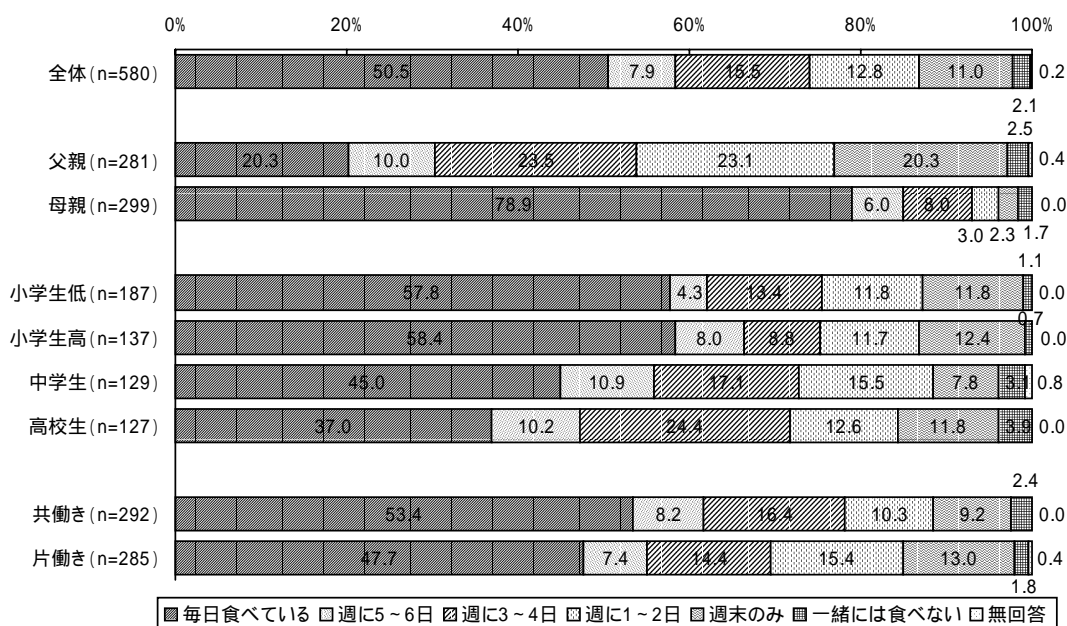
父母別にみると、一緒に「毎日食べている」父親は 27.4%しかいないのに対し、母親は 49.8%とほぼ半数は一緒に食べているようです。

子どもの年代別にみると、一緒に「毎日食べている」割合は、子どもが高校生になると 28.3%と急激に低下します。また、「一緒には食べない」割合も高校生は 20.5%もあり、高校生の 5 人に 1 人は朝食を全く親と一緒に食べていない実態が明らかになりました。

# 子どもと一緒に夕食を食べているか？

子どもと夕食を「毎日食べている」親は、父親約 20%、母親約 79%。  
朝食に比べ、夕食を一緒に食べる割合の方が全体的に高い。

図表4 子どもと一緒に夕食を食べる頻度(全体・父母・年代・共片働き別)



次に、普段子どもと夕食をどの程度一緒に食べているかを尋ねました。

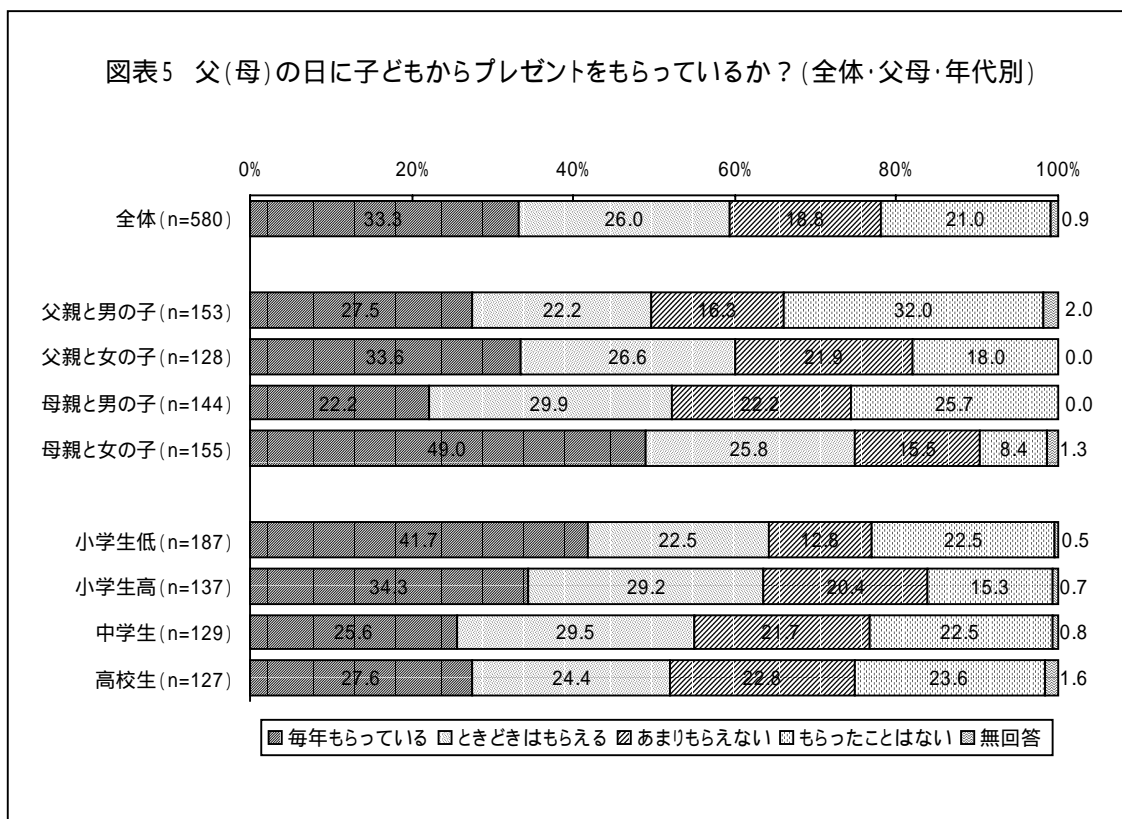
全体では、50.5%の親が子どもと一緒に夕食を「毎日食べている」ことがわかりました。また、全く「一緒に食べない」親は2.1%とほとんどいません。朝食を全く一緒に食べない親が1割以上いる実態とは違い、夕食についてはほとんどの親が多かれ少なかれ一緒に食べているようです。

父母別にみると、「毎日食べている」父親は20.3%しかいないのに対し、母親は78.9%と大きな差があります。

子どもの年代別にみると、子どもが小学生の間は過半数が「毎日食べている」のに対し、中学生、高校生と年齢があがるにつれその割合は低下します。

## 父(母)の日に子どもからプレゼントをもらえるか？

プレゼントを「毎年もらっている」親は、全体の約3分の1。  
最ももらえる関係は“母親と女の子”で、49%が「毎年もらっている」。



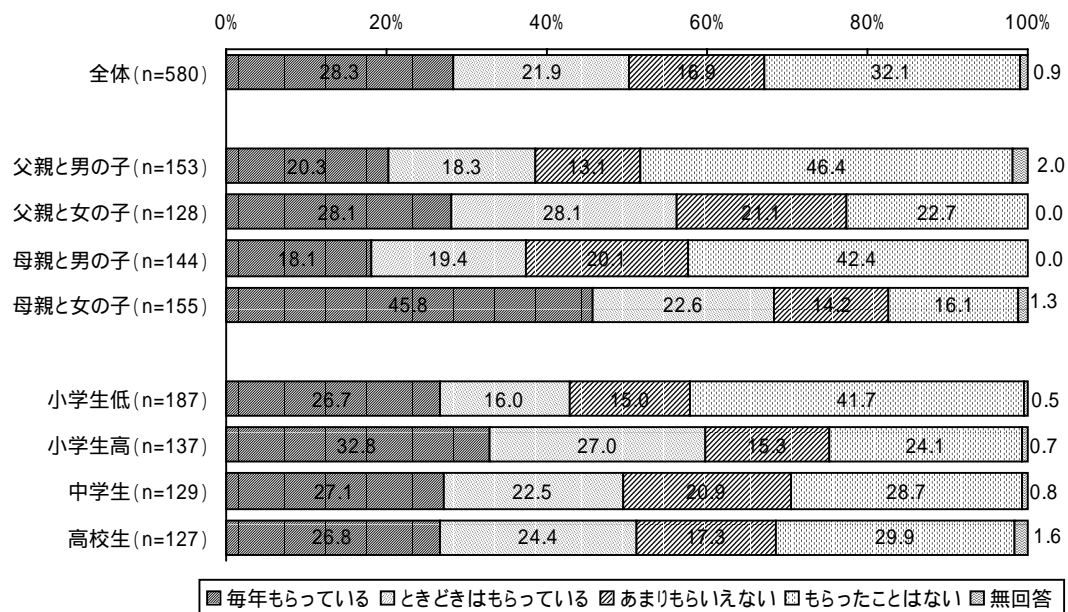
父の日や母の日に、それぞれ子どもからプレゼントをもらっているかを尋ねました。全体では、プレゼントを「毎年もらっている」(33.3%)親は約3分の1に過ぎず、「ときどきはもらえる」(26.0%)人を足しても、プレゼントをもらえる親は約6割ということになります。また、プレゼントを「もらったことはない」親も21.0%いるため、約5人に1人は父の日や母の日にプレゼントをもらう習慣がないことがわかります。

父母別にみると、最もプレゼントをもらえる関係は“母親と女の子”であり、母親の約半分は「毎年もらっている」(49.0%)実態が明らかになりました。一方、最もプレゼントをもらえない関係は“父親と男の子”であり、父親の約3人に1人は、息子から全く「もらったことはない」(32.0%)ということもわかります。

# 自分の誕生日に子どもからプレゼントをもらえるか？

プレゼントを「毎年もらっている」親は、全体の約28%。  
父の日や母の日と比較すると、誕生日の方がもらっている割合は低い。

図表6 自分の誕生日に子どもからプレゼントをもらっているか？(全体・父母・年代別)



次に、自分の誕生日に子どもからプレゼントをもらっているかを尋ねました。

全体では、「毎年もらっている」人は28.3%に過ぎず、父の日や母の日と比べ、親の誕生日の方がプレゼントをもらっている割合は低いようです。また、「もらったことはない」親も32.1%おり、約3人に1人は誕生日に全く子どもからプレゼントをもらえない実態が明らかになりました。

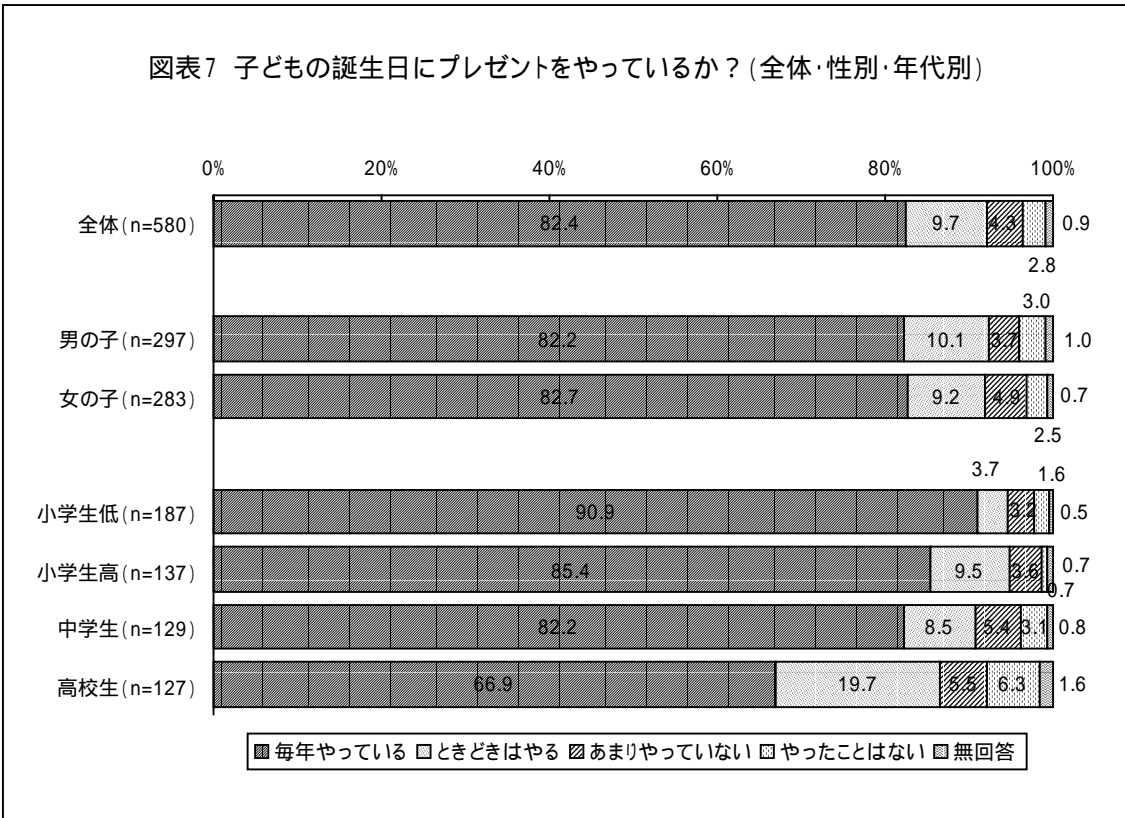
父母別にみると、もらえない(「あまりもらえない」+「もらったことはない」の合計)割合が高いのは、父母にかかわらず子どもが息子の場合です。父親と息子の場合は59.5%(13.1%+46.4%)、母親と息子の場合は62.5%(20.1%+42.4%)と、約6割の親が息子からはプレゼントをもらえないことがわかりました。



# 子どもの誕生日にプレゼントをやっているか？

プレゼントを「毎年やっている」親は、全体の約 82%。  
 子どもが高校生になると、「毎年やっている」割合は低下する(約 67%)。

図表7 子どもの誕生日にプレゼントをやっているか？(全体・性別・年代別)



次に、子どもの誕生日にプレゼントをやっているかを尋ねました。

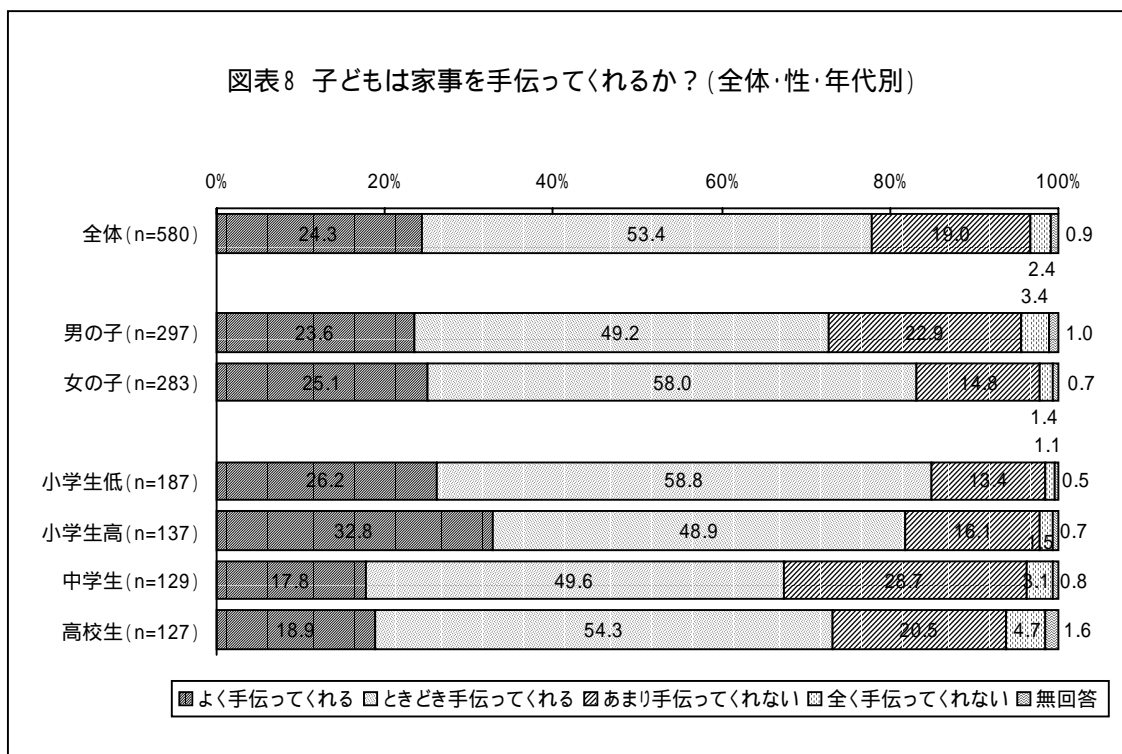
全体では、子どもにプレゼントを「毎年やっている」親は 82.4% という結果でした。

子どもの年代別にみると、子どもが成長するにつれて「毎年やっている」割合は低くなり、それと同時に「ときどきはやる」割合が高くなります。特に、子どもが高校生になると「毎年やっている」割合が大きく低下(66.9%)し、「ときどきはやる」割合が大きく増加する(19.7%)ことから、毎年プレゼントを贈るという習慣は中学生までといった家庭も多く存在することがわかります。

## 子どもは家事を手伝ってくれるか？

家事を「よく手伝ってくれる」子どもは、全体の約4分の1。  
男の子よりも女の子、中高生よりも小学生の方が手伝う割合は高い。

図表8 子どもは家事を手伝ってくれるか？(全体・性・年代別)



子どもは普段家事を手伝ってくれるかを尋ねました。

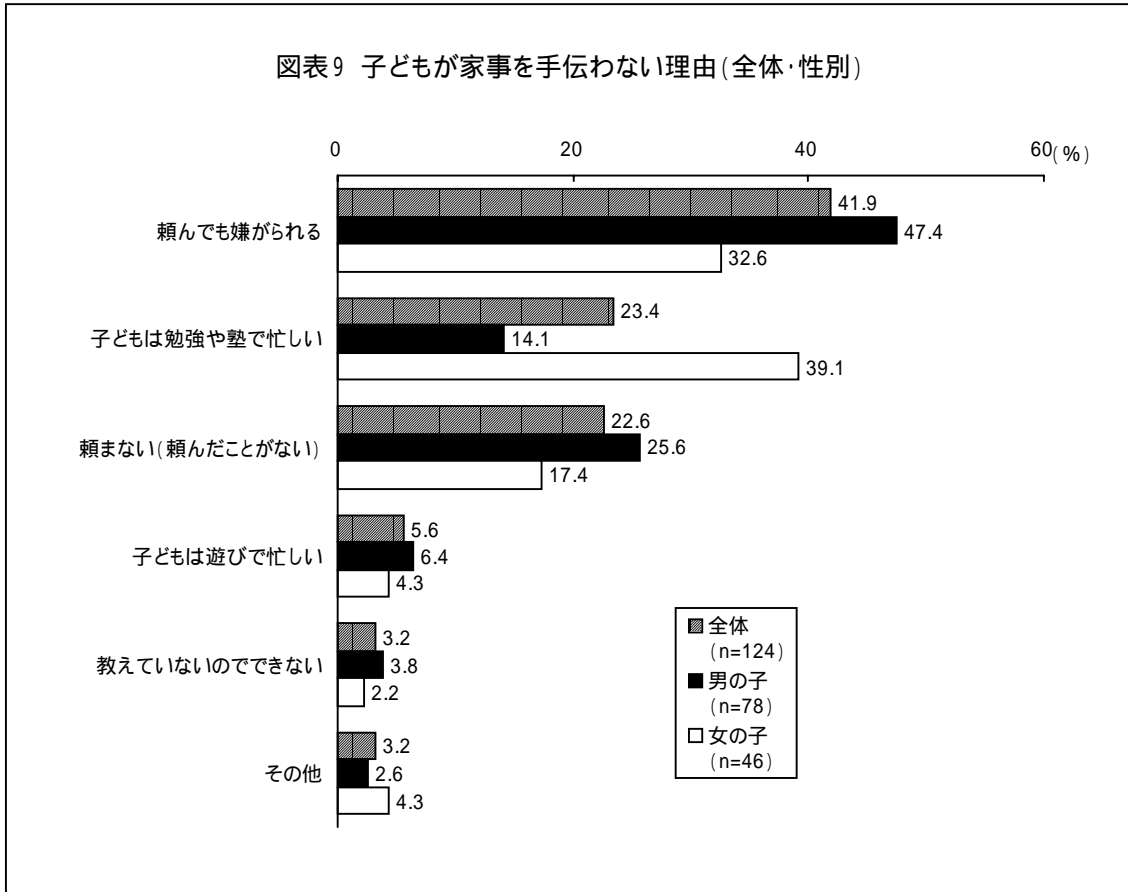
全体では、家事を「よく手伝ってくれる」割合は24.3%と、子どもの約4分の1は家事手伝いに積極的であることがわかりました。また、「ときどき手伝ってくれる」(53.4%)をあわせると、子どもの77.7%は家事手伝いに協力的であることがみとれます。

子どもの性別でみると、男の子が家事手伝いに非協力的(「あまり手伝ってくれない」と「全く手伝ってくれない」の合計)な割合は、26.3%(22.9%+3.4%)と約4分の1となり、女の子に比べて多い結果となりました。

子どもの年代別にみると、最も家事手伝いに協力的(「よく手伝ってくれる」と「ときどき手伝ってくれる」の合計)な年代は小学生の低学年(85.0%(26.2%+58.8%))で、最も非協力的(「あまり手伝ってくれない」と「全く手伝ってくれない」の合計)な年代は中学生(31.8%(28.7%+3.1%))でした。

## 子どもが家事を手伝わない理由

全体で最も多い理由は、「頼んでも嫌がられる」(約42%)から。男の子は「頼んでも嫌がられる」、女の子は「勉強や塾で忙しい」が多い。



図表8において、子どもが家事を「あまり手伝ってくれない」「全く手伝ってくれない」と回答した父母に対し、その理由を尋ねました。

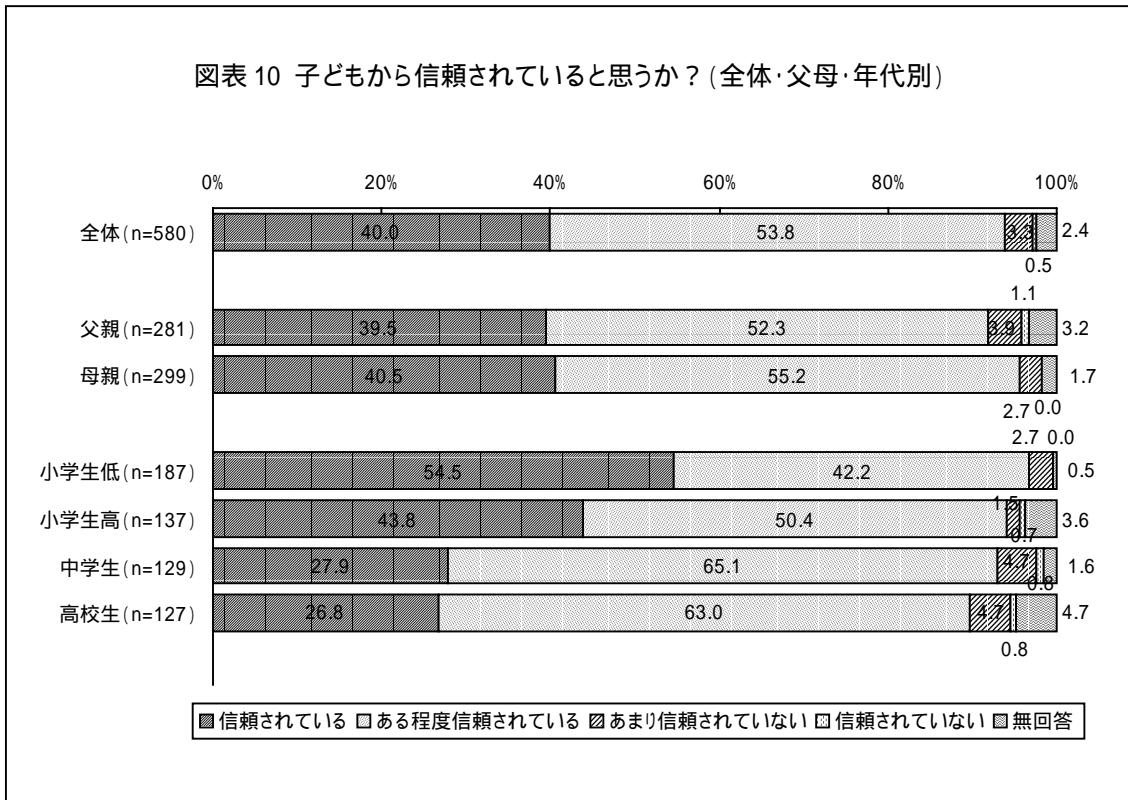
全体では、「頼んでも嫌がられる」(41.9%)が最も多く、次いで「子どもは勉強や塾で忙しい」(23.4%)、「頼まない(頼んだことがない)」(22.6%)の順となりました。

子どもの性別で見ると、男の子の場合は「頼んでも嫌がられる」(47.4%)が他の理由に比べて最も多く、女の子の場合は「子どもは勉強や塾で忙しい」(39.1%)が最も多い理由となりました。また、女の子に比べ、男の子には家事を「頼まない(頼んだことがない)」(25.6%)親が多いこともみてとれます。

## 子どもから信頼されていると思うか？

子どもから「信頼されている」と思っている親は、全体の40%。  
子どもが中学生以上になると「信頼されている」と思う割合は低下する。

図表 10 子どもから信頼されていると思うか？ (全体・父母・年代別)



自分は子どもから信頼されていると思うかを尋ねました。

全体では、40.0%の親が自分は子どもから「信頼されている」と感じていることがわかりました。また、過半数の親が「ある程度信頼されている」(53.8%)といった曖昧な感情を持っていることもみてとれます。

子どもの年代別にみると、「信頼されている」と感じている人は、小学生低学年の子どもを持つ親は54.5%と過半数以上いますが、中学生や高校生になるとその割合が約半分となります。このことから、子どもが中学生になると、子どもから「信頼されている」という親の意識が大きく低下することがわかります。

## 研究員のコメント

本アンケート調査は、親子関係の実態と親の子に対する意識を探るべく、親子のコミュニケーションや子どもに対する親の期待、子育てなどのテーマをもとに実施いたしました。今回はその中から、親子のコミュニケーションの実態に関する調査結果の一部を掲載しています。

親子の対話に関しては、父母の約3分の2は子どもとよく対話できていると考えていますが、父母間には大きく差があり、母親に比べ子どもと頻繁には対話できない父親が少なからず存在することがわかります。

食事を一緒に食べているかどうかをみると、程度の差はあるものの、朝食は約9割、夕食はほとんどの親が週に何回かは一緒に食べている一方、朝食を全く一緒には食べないという親も約1割存在するようです。

プレゼントを贈る、贈られるという習慣については、約8割の親が子どもに毎年必ずプレゼントをやっていますが、父の日や母の日、自分の誕生日に必ずもらえる親は約3割に過ぎません。特に、娘から母親への贈答は比較的多く行われているのに対し、息子から親へのプレゼントは稀薄化している家庭が少なくないことも明らかになりました。

家事手伝いに積極的な子どもは全体の約4分の1しかおらず、男の子は「頼んでも嫌がられる」、女の子は「勉強や塾で忙しい」といった理由が多くみられました。また、そもそも「頼まない(頼んだことがない)」という親が約5人に1人はいることから、子どもに遠慮する親の姿勢がみ受けられます。

このように、親子の日常の中で普段当たり前のようにとり交わされている対話や食事、プレゼント、家事手伝いなどに、親子関係がどのように影響を及ぼしているのかを、今回の調査では多少なりともかいまみることができました。

他のテーマに沿った調査結果につきましては、追って発表させていただきます。

(研究開発室 副主任研究員 丹野 裕人)